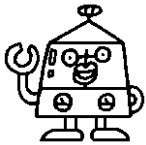


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

花には、なぜ、みつがあるの



花がたねをつくるのに必要な、花粉を運んでくれる昆虫を、よびよせるためだといわれているよ。

たいていの花は、昆虫がいないと、たねや実をつけられない

たねや実ができるためには、めしべに花粉を運んでくれるものがが必要です。イチゴを育てている温室やリンゴの果樹園^{かじゅえん}などでは、花がさく時期になると、ミツバチの巣箱^{すばこ}をかりてきて、ハチに花粉を運んでもらうことが、よく行われます。ハチが花粉をめしべの柱頭^{ちゅうとう}につけてくれる（受粉^{じゅふん}する）ことで、実がなるからです。

花は、花粉を運んでもらうため、みつを用意して、昆虫をたくさん集めます。また、みつはめしべやおしべの根もとあたりにあり、みつをなめようとする、昆虫の体に花粉がつくようになっています。昆虫はみつを集めているだけに、ちゃんと花粉を運ぶ役目をさせられていることになります。

たいていの花は、別な株^{かぶ}の花の花粉をもらうようになっている

カボチャやヘチマのめ花のように、実になるところ（子ぼう）がついている花も、受粉しなければ実にはならず、かれ落ちてしまいます。

アブラナのように、同じ花の中にめしべとおしべがある花でも、たいてい、同じ種類の別な株の花の花粉をもらって、たねをつくるようになっています。そのほうが、病気やかんきょうの変化などに強い、よいたねができるからです（アサガオなどは、同じ花の中の花粉で受粉します）。

イネやトウモロコシ、スギなどにも花があり、花粉がめしべについてたねができます。でも、これらの花の花粉は、風が運ぶようになっているため、虫をよぶ必要はありません。だから、これらの花にはみつはなく、目立つ花びらもありません。



春になるとさわがれる花粉症って、スギの花粉がいっぱい飛んでいるのが原因だってさ。